

新年度の始まり、在宅介護化へのアンマッチ (2014.4.7)

さあ、いよいよ新しい年度の始まり、卯月・4月になりました。

この時期は卒業、就職そして入学、進級と年末年始に続く区切りの時期ではありますが、規模から言えば、比べることも出来ない位の物、量になりますね。

ランドセルが重たげなピッカピッカの一年生、制服が何となく大きめの中学一年生とたくさん目に留まりますよね。いずれにしろ、全てが新鮮ですね。

区切りの時期なので、先月から今月にかけては様々な物のまとめとスタート等の打ち合わせが有り、仕事から離れる時間が多くなっております。

自分としては患者さんと対坐しているのが良いのですが……。

10年後に高齢者の数が最大数になるということで、疾病や介護に対して国を挙げての在宅医療・在宅介護の動きが大きいうねりを上げながら進んでいるところです。

これまでは病院という入れ物にいれておけば【失礼しました】で済んでいたものが、必要な時に使えない入院ベットになってしまうことや、無駄な経費が掛かってしまうということから、在宅化へのシフトになったのです。

ただ、生活の基盤の変化が、国で進める策で全てうまくいっているとはならないのです。

第一、家族構成が大きく変化したし、高齢夫婦だけ或いは一人暮らしとなっていたり、数世代の大家族暮らしであっても、話し相手にされずに家庭内独居になっている状況も当たり前になっているのです。

90歳をこえる方々より自らの命を絶ってしまうなどという悲しい話が出てくること等は、現にあることですが、絶対に起こってはいけない事であると考えます。

皆さん一人一人が、それぞれに尊厳を持ちつつ、生活することが理想ですので、それを目標にして、楽しく過ごせる毎日が訪れるように一寸だけ努力しましょう。

間もなく桜もきれいに、豪華に咲くでしょう。楽しみで一す。

平成26年4月

院長 清治 邦夫